

サドカイ人たち、復活について問う

ルカ福音書20:27-44 (新改訳2017訳)

20:27 復活があることを否定しているサドカイ人たちが何人か、イエスのところに来て質問した。
 20:28 「先生、モーセは私たちのためにこう書いています。『もし、ある人の兄が妻を迎えて死に、子がいなかった場合、その弟が兄嫁を妻にして、兄のために子孫を起さなければならない。』
 20:29 ところで、七人の兄弟がいました。長男が妻を迎え、子がいないままで死にました。
 20:30 次男も、
 20:31 三男もその兄嫁を妻とし、七人とも同じように、子を残さずに死にました。
 20:32 最後に、その妻も死にました。
 20:33 では復活の際、彼女は彼らのうちのだれの妻になるのでしょうか。七人とも彼女を妻にしたのですが。」
 20:34 イエスは彼らに言われた。「この世の子らは、めとったり嫁いだりするが、
 20:35 次の世に入るのにふさわしく、死んだ者の中から復活するのにふさわしいと認められた人たちは、めとることも嫁ぐこともありません。
 20:36 彼らが死ぬことは、もうあり得ないからです。彼らは御使いのようであり、復活の子として神の子なのです。
 20:37 モーセも柴の箇所を、主を『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』と呼んで、死んだ者がよみがえることを明らかにしました。
 20:38 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神です。神にとっては、すべての者が生きているのです。」
 20:39 律法学者たちの何人かが、「先生、立派なお答えです」と答えた。
 20:40 彼らはそれ以上、何もあえて質問しようとはしなかった。
 20:41 すると、イエスが彼らに言われた。「どうして人々は、キリストをダビデの子だと言うのですか。
 20:42 ダビデ自身が詩篇の中で、こう言っています。『主は、私の主に言われた。「あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。
 20:43 わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。』」
 20:44 ですから、ダビデがキリストを主と呼んでいるのです。それなら、どうしてキリストがダビデの子なのでしょう。」

【祈りながら考えよう】

- (1) サドカイ人たちが復活を否定していたのはなぜですか。
- (2) キリストを信じる者は、復活して名実ともに「神の子」となるとはどういうことですか。
- (3) ダビデの主であるお方が、どうして同時にダビデの子孫でもあり得るのですか。

【解 説】

(1) 復活を否定するサドカイ人

「復活があることを否定しているサドカイ人たちが何人か、イエスのところに来て質問した。」(27節)
 政治上の問題でイエスを 陥れることができなかったので、今度は《サドカイ人たちが何人か、イエスのところに来て》、神学的な議論を仕掛けてきた。

彼らは旧約のモーセ五書(創世記-申命記)だけを重んじ、魂の不滅(ふめつ)死人の復活も否定していた。彼らは、モーセが復活を信じていなかったと考えていたようである。それで彼らは考えた。

もしイエスが自分たちの質問に窮(きゆう)して、復活はないと言わざるを得なくなれば、復活を信じているパリサイ人をはじめ多くの民衆(ふひよう)の不評(ふへい)を買(か)い、イエスの人気(にんき)は失墜(しつてい)するだろう。

(2) イエスへの質問

先生、モーセは私たちのためにこう書いています。『もし、ある人の兄が妻を迎えて死に、子がいなかった場合、その弟が兄嫁を妻にして、兄のために子孫を起さなければならない。』

ところで、七人の兄弟がいました。長男が妻を迎え、子がいないままで死にました。次男も、三男もその兄嫁を妻とし、七人とも同じように、子を残さずに死にました。最後に、その妻も死にました。では復活の際、彼女は彼らのうちのだれの妻になるのでしょうか。七人とも彼女を妻にしたのですが。」(28-33節)

彼らの話によると、兄の妻が子を産まないうちに兄が死んでしまった。そういう場合はそのイスラエルの家系を絶やさないため、弟がいる場合、弟がその兄嫁をめとって、そして最初に生まれた男の子を兄の子として、兄の家系を嗣(ついで)者としなければならない、ということが定められていた。

旧約聖書の申命記25章5-6節には、次のような規程がある。



兄弟と一緒に住んでいて、そのうちの一人が死に、彼に息子がいない場合、死んだ者の妻は家族以外のほかの男に嫁いではならない。その夫の兄弟がその女のところに入り、これを妻とし、夫の兄弟としての義務を果(はた)さなければならない。

そして彼女が産む最初の男子が、死んだ兄弟の名を継ぎ、その名がイスラエルから消し去られないようにしなければならない。(申命記25:5-6)

ある女は《7人の兄弟》と次々に結婚した。7人目が死んだ時、彼女は子どものないままだった。そして彼女も死んだ。「《復活の際、その女はだれの妻になる》のか」というものだった。

(3) 聖書と神の力に対する無知

イエスはこれに対して言われた。マタイ福音書22章29節を見ると、

イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは聖書も神の力も知らないで、思い違いをしています。」

とある。彼らがこのような問題をもって、復活なんかあったらおかしいというふうを考えるのについて、2つの彼らの無知があるとされる。

第1は、聖書についての無知である。第2には、神の力というものを知ってはいない。神の全能(ぜんりやく)というものに対する無知である。そういう所からこんなとんでもない間違(まちが)った考え方を持つようになるのだと言われている。神の言葉に対する無知と、神の力に対する無知について、具体的に説明される。

(4) 御使い以上の神の子

イエスは彼らに言われた。「この世の子らは、めとったり嫁いだりするが、次の世に入るのにふさわしく、死んだ者の中から復活するのにふさわしいと認められた人たちは、めとることも嫁ぐこともありません。

彼らが死ぬことは、もうあり得ないからです。彼らは御使いのようであり、復活の子として神の子なのです。(34-36節)

①復活するのにふさわしいと認められた人たち

私たち罪人が、次の世に入るのにふさわしく、死者の中から復活するのにふさわしい者となるためには、主イエス・キリストの救(きゆう)いにあずかる以外(いげん)に道はない。

復活は、この現世(げんせい)の体に返(かえ)ることではない。イエス様の復活の栄光(えいこう)体と同じようになることである。《彼らは御使(ごし)い

のようであり」とある。御使いには男女がない。死ぬことはないから、めとることも嫁ぐこともない。男女結合の結婚という出来事は、もはや必要のない世界となる。

②もはや死ぬことのない復活した神の子

天における状態がいかにすぐれているかということが、36節にも記されている。もはや死ぬことはない。その点で、人々は《御使いのよう》になる。しかし、御使いには復活というものはない。御使いは、人間のような、あるいはイエス様が人となって現れたような、肉体というものを持ったことがない。

キリストを信じる者は栄光の体に復活する。復活した神の子となる。私たちはすでに「神の子ども」であるが、今現在、それは外見上はわからない。しかし、復活の時、天では、神の子どもであることが目に見えるかたちで明らかにされる。このことは、私たちが「第1の復活」（黙示録20:5-6）にあずかるという事実がこのことを保証している。

「キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています」（Iヨハネ3:2）
 「あなたがたのいのちであるキリストが現れると、そのときあなたがたも、キリストとともに栄光のうちに現れます」（コロサイ3:4）

（5）体の贖いを待つ今

復活ということは、私たちにそのような具体的な神の子の姿を与える。キリストを信じて、私たちは今すでに神の子である。しかし、私たちの体はまだ神の子にふさわしい体になっていない。だからパウロはロマ8章23節でこう言っている。

それだけでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだを贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。

現在は、御霊の初穂をいただいている状態である。だからこの状態にあって心の中でうめきながら、この体の贖われることを待ち望んでいる。それはどういうことか。この体が、元のままの死ぬべき体ではなくして、もはや死のない、イエス様と同じ永遠の復活の体を与えられる時、私たちは内も外も名実共に「神の子」として完成される。何と感謝なことであろう。

（6）生きている者の神

モーセも柴の箇所、主を『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』と呼んで、死んだ者がよみがえることを明らかにしました。神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神です。神にとっては、すべての者が生きているのです。（37-38節）
 "But even Moses showed in the burning bush passage that the dead are raised, when he called the Lord 'the God of Abraham, the God of Isaac, and the God of Jacob.' "For He is not the God of the dead but of the living, for all live to Him." 【Luke 20:37-38 / NKJV】

復活を証明するために、イエスは彼らの信じるモーセ五書から出エジプト3章6節を引用し、

さらに仰せられた。「わたしはあなたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」
 Moreover He said, "I am the God of your father-the God of Abraham, the God of Isaac, and the God of Jacob."

そこに「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神であった」という過去形でなく、《アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である》という現在形が用いられている事実を指摘する。つまり彼ら族長たちは〈死んだ者〉ではなく、〈生きている者〉なのである。この答にサドカイ人は黙ってしまった。

神が、《アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である》と言われる時、神はこの時死んだ者の神として言われているのか。過去の関係として言われているのではない。現在形で言われている。現在ただ今、あなたがたの祖先の神である、ということは、アブラハムと神様との関係は、今もそのまま生きた関係であるということである。

それを全く無視して、死んだら何もなくなってしまうように考えているその考えは、全く聖書に対して無知もはなは

だしいことではないかと言われる。

神は生きている者の神。だからアブラハムは今も生きている。イサクもヤコブも生きている。またモーセも生きている。常に現在形であり、過去形ではない。

主は「わたしはアブラハムの神であった」と言われたのではなく、「わたしはアブラハムの神である」と言われた。神が「生きている者の神」である以上、復活は当然のことなのである。

旧約時代においては、主をヤハウェと言う。ヤハウェというのはヘブル語のbe動詞の第一人称の現在、あるいは未完了形である。「わたしはあってある者」過去にあってあり、今あるお方、常にある方、それがヤハウェなる神である。

（7）ダビデの主である方がダビデの子孫でもある

《律法学者たちの何人か》が、「先生、立派なお答えです」と答えた。主の議論に説得力があることを認めざるを得なかった。彼らはそれ以上、何もあえて質問しようとはしなかった。しかし、イエスはそれで論証を終えられたわけではなかった。主はもう1度、神のみことばに言及された。詩篇110篇1節で、《ダビデ》がメシヤを《私の主》と呼んでいる箇所である。

どうして人々は、キリストをダビデの子だと言うのですか。ダビデ自身が詩篇の中で、こう言っています。
 『主は、私の主に言われた。「あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。」』
 ですから、ダビデがキリストを主と呼んでいるのです。それなら、どうしてキリストがダビデの子なのでしょう。」
 （39-44節）

最初の「主」は父なる神を、二番目の「主」はメシヤを指している。だからダビデはメシヤを《私の主》と呼んでいる。イエスは、《「ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どうして彼はダビデの子なのでしょう」》とさらに質問された。

その答えは、「メシヤはダビデの主であり、また、ダビデの子である」ということである。つまり、神であり、そして人であるということになる。神として、メシヤはダビデの主であり、人として、メシヤはダビデの子孫なのである。

そのメシヤは、ダビデの子としてマリアの家系を通してお生まれになったが、ことば、わざ、行いによって、神の御子であることを明らかにされたのである。

主は「人の子」としてダビデの子孫であったが、同時に、ダビデの創造主でもあったのである。しかし、彼らはあまりにも盲目だったため、理解することができなかった。